



## 会津医療センター開設10周年記念事業 御挨拶

会津医療センター副センター長兼附属病院長 大田 雅嗣

本日は、公立大学法人福島県立医科大学会津医療センター開設10周年記念シンポジウムにご参加いただき、誠にありがとうございます。本日のシンポジウムには150名を超える参加をいただき、このうち75名が一般の皆様のご参加となっております。本日はお越しいただきありがとうございます。

当センターは、2013年に開設し、本年5月で10周年を迎えました。これまで当センターの運営に多大な御支援、御協力をいただいた皆様へ心より感謝申し上げます。

2010年4月より開設準備室に参画した職員の一員として、10年という節目の年を迎えることができたことを非常に感慨深く感じております。

当センターは、旧県立会津総合病院と喜多方病院を統合し、新たに福島県立医科大学附属病院として設置され、2013年5月12日の開院以来、初代病院長鈴木啓二先生の指導力のもと専門性の高い医療を提供してまいりました。

「血液内科」、「漢方内科」など会津地域で初めてとなる診療科を設置し、それぞれ専門的な診療に特化した26の診療科で患者さんの視点に立った医療に努めてまいりました。さらに、患者支援センター、看護専門外来の開設等、地域の方々に対し、きめ細やかな包括的な医療支援サービスを提供しております。

また、福島県立医大から診療支援を受けることにより、当センターから会津各地の医療機関に医師を派遣する診療応援体制を構築することができました。2020年7月には福島県のモデル事業として当センター総合内科学講座山中克郎先生が中心となり、三島町に「奥会津在宅医療センター」を開設し、奥会津における在宅での診療ならびに介護の支援を行うことで地域の医療に貢献してきました。

当センターは、第二種感染症指定医療機関として2020年2月より会津保健福祉事務所ならびに福島県感染症対策本部の指導のもと、新型コロナウイルス感染症の治療及び感染拡大防止に努めてきました。未だ終息が見えないなか、これまでに蓄積した経験をもとに感染対策チームの活動を支援してまいります。

10年が経過したいま、次の10年に向けてさらなる発展を図っていきます。

引き続き会津の4つの医師会の皆様のご協力をいただきながら、近隣の医療機関との連携を強化し専門性を活かすことにより、会津で完結できる医療をこれからも実践してまいります。同時に、人口の減少・高齢化が進むなか、地域医療のあり方を見直す時期でもあります。当センターにはへき地医療拠点病院として福島県の医療政策に貢献していく責務があります。今後、医療支援をどのように進めていくか、地域のニーズに合わせ、職員全員で考えていきたいと思えます。

さらに会津の文化や風土を活かした産学協同の取り組みを進め、情報技術いわゆるIT社会を見据え、他大学、企業と医用工学に関する共同研究を推進しております。多くの診療科でIT技術を応用した画像診断に関する研究成果が発信されています。

今後の課題は後継世代の育成です。医療センター職員一人一人のキャリアパスの構築にも留意しながら、院内全ての部署で専門性を活かした医療人の育成を行っており、会津地域における医療の進化につなげていきたいと思えます。

最後になりますが、地域医療の「福島モデルの創生」に尽力いただき2019年4月26日にご逝去された棟方充前病院長の志を引き継ぎ、職員一人一人が会津地域の皆様の健康を守っていくという自覚を持ちながら、当院をさらに発展させる覚悟でおります。また全員参加型の病院運営を心がけてまいります。どうかこれからも会津医療センターをよろしく願います。